

身体教育医学研究所うんなん

Physical Education and Medicine Research Center UNNAN



2025

1

身体教育医学研究所うんなんとは

身体教育医学研究所うんなん（以下研究所うんなん）は中山間地域ならではの健康課題をはじめ、国内外で未だ解決されていない様々な課題に対して独自の研究活動を展開する「研究拠点」となり、研究から繋がる教育・評価の活動を展開することで、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域の実現に繋げることを目的として活動を進めています。

また、近頃は国や地方自治体において「合理的根拠に基づく政策立案（EBPM）」が推進されてきており、研究所うんなんでは評価活動を中心にEBPMへの関わりが増してきています。

平成15(2003)年

● 新市建設計画策定委員会にて旧吉田村委員より
身体教育医学研究所設置提案

平成16(2004)年11月

● 6町村（大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町）
の合併により雲南市誕生

平成17(2005)年

● 雲南市身体教育医学研究所設立準備委員会（第1～3回）
開催

平成18(2006)年4月

● 身体教育医学研究所うんなん開所
（社会福祉法人よしだ福祉会へ
運営委託）



開所記念式典

平成25(2013)年3月

● 身体教育医学研究所うんなん
中長期計画策定

平成27(2015)年3月

● よしだ福祉会運営委託から市直営
方式に変更（かもてらすへ事務所
移転）

● 雲南市身体教育医学研究推進機構
発足



加茂健康福祉センターかもてらす

平成28(2016)年4月

● 身体教育医学研究所うんなん
設立10周年記念事業開催

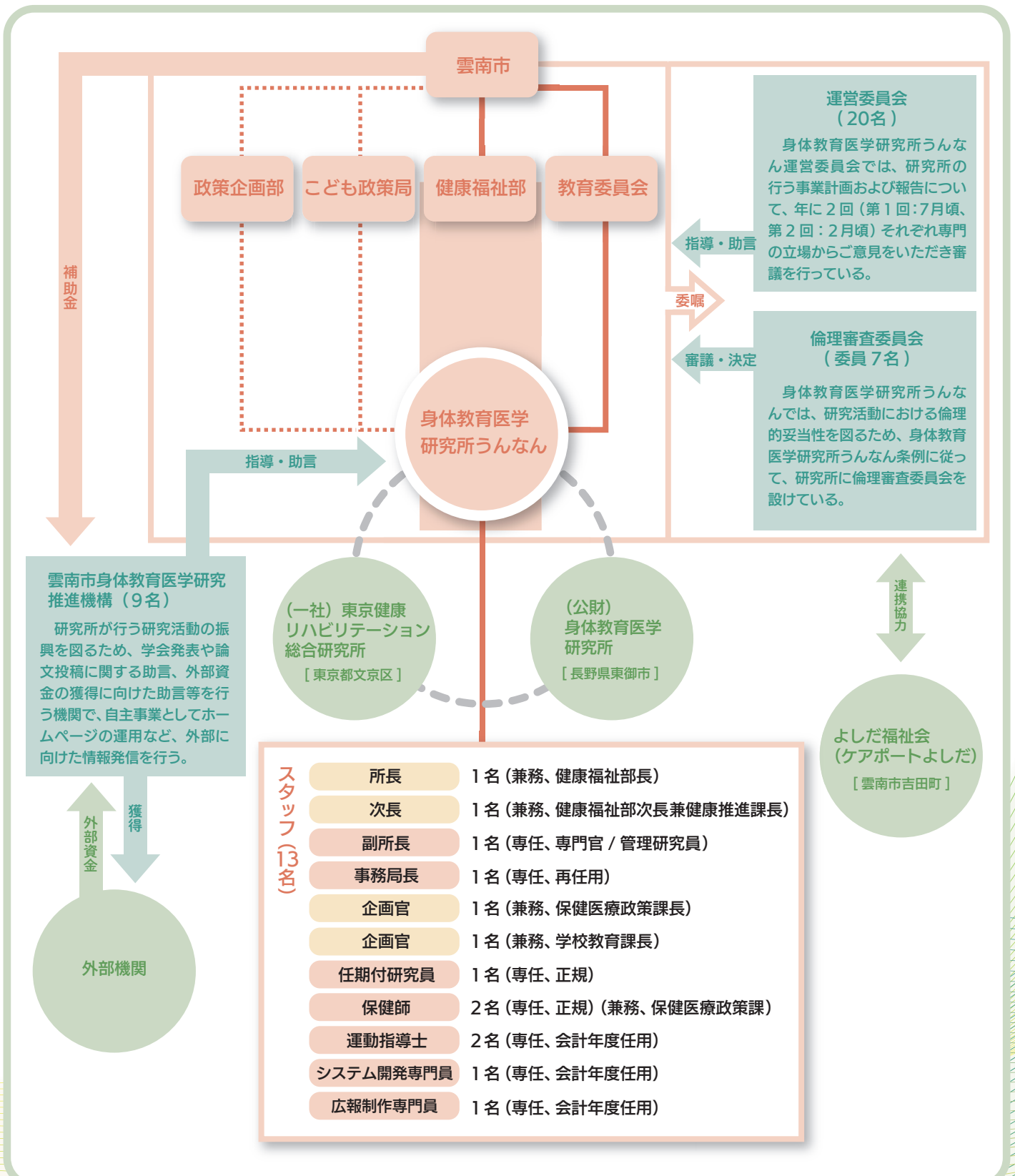


設立10周年記念誌

令和2(2020)年3月

● 身体教育医学研究所うんなん
第2次中長期計画策定

研究所うなんは、雲南市役所健康福祉部に属し、雲南市のさまざまな健康づくりの取り組みに沿って活動しています。連携協力機関である、身体教育医学研究所（長野県東御市）や東京健康リハビリテーション総合研究所（東京都文京区）をはじめ、地域住民、保健・医療・介護・福祉・教育・スポーツといった諸分野との連携により、専門性を持つ研究員や保健師、運動指導士、システム開発専門員、広報制作専門員といった多職種連携のもとで、地域の特性や実情に即した、運動・身体活動や公衆衛生等の専門性を活かした教育・評価・研究活動を実施しています。



■基本理念（Mission）

●生涯健康でいきいきと暮らす、小児期からの健康づくり

研究所うんなんは、雲南市が総合計画の基本理念に掲げた挑戦により、「健康長寿・生涯現役」の実現をめざすまちづくりを支える実践的シンクタンクとして、多様な分野・領域を相互に関連付けながら研究と実践を進めます。具体的には、資源と地域力（自然・文化・歴史、地域のつながりや信頼関係の強さ、地域自主組織など）を活かし、地域住民をはじめ国内外の諸分野に渡るネットワークとの協働関係を構築して教育（指導支援、人材育成）・評価（事業評価、地域評価）・研究（学術研究、政策研究）活動に取り組めます。そして、誰もが生涯健康でいきいきと暮らし続けることができるための公共政策づくりを通じ、雲南市の地方創生に寄与します。

■方向性（Vision）

●元気な子どもたちをたくさん育てることが究極・最良の介護予防

運動あそびなどにより、楽しみながら心とからだを育むことができる環境や体制をつくり、生涯健康のために子どもの頃からの健全な生活習慣の定着をめざします。

●生涯現役のまちづくり実現に向けた 誰もが楽しくからだを動かせる環境づくり

市民の生涯現役の実現を支援するため、地域人材の育成を図るなど、誰もがからだを動かす大切さと楽しさを感じ、適切な身体活動を実践できる環境づくりに努めます。

●地域や関係機関が進める生涯健康の取り組みの支援

研究所うんなんの独自性と強みに基づき、地域や関係機関がすすめる生涯健康に関わる取り組みを支援します。

■行動指針（Action）

●フットワーク・チームワーク・ネットワークを合言葉に

研究所うんなんは、自ら考え積極的に行動し（フットワーク）、仲間と共に協力して（チームワーク）、地域や世界とのつながり（ネットワーク）を生かしながら、ミッションとビジョンの達成に向け行動します。

基本理念
Mission

基本理念を
実現するため
目指すべき
3つの方向性
Vision

2つの重点課題

8つの重点活動

外部・関係機関

連携

行政職員

生涯健康でいきいきと暮らす、小児期からの健康づくり
～ 地域と共に こころとからだを育む ～

●元気な子どもたちを
たくさん育てることが
究極・最良の介護予防

●生涯現役のまちづくり
実現に向けた
誰もが楽しくからだを
動かせる環境づくり

●地域や関係機関が進める
生涯健康の取り組みの
支援

①活動成果の「見える化」
～教育・評価・研究活動の好循環形成
に向けて～

②科学的根拠に基づく適切な健康行動
(身体活動、食など)の促進による
運動器の健康づくり

①子どもの身体活動の促進

③運動キャンペーン研究の全域展開

⑤青壮年期の身体活動の促進・支援

⑦健康増進のための分野横断連携の推進

②小・中・高生のスポーツ傷害(外傷・障害)予防

④地域運動指導員への知識・技術支援

⑥健康づくり拠点等との連携・協働

⑧子どもの健康を支えるデータ連携基盤の構築および
データ利活用の推進

多分野・多職種連携

研究員

保健師

運動指導士

システム開発
専門員

広報制作
専門員

行動指針 Action

フットワーク・チームワーク・ネットワーク

■ 8つの重点活動

①

子どもの身体活動の促進

雲南市教育委員会・こども政策局が作成した「雲南市幼児期運動プログラム（理論編・実践編）」や実践事例集を活用し平成 24 年から取り組みを支援しています。引き続き子どもの健康・体力の向上に向けた運動習慣獲得の取り組みを進められるようモニタリングシステムやデータ分析・評価に基づく現場への還元体制の構築についても推進します。

- 雲南市幼児期運動プログラムの普及啓発 - 幼児期の運動促進事業の評価支援

②

小・中・高生のスポーツ
傷害（外傷・障害）予防

子どものスポーツ活動に関係する団体へ傷害予防の啓発を行います。また、学校における運動器検診の結果を踏まえた予防・事後フォロー体制を確立すべく、スポーツにおける子どものケガ等の状況を定期的に把握できる仕組みづくりを進めるとともに、認定スクールトレーナー事業等を推進する体制整備の支援に取り組みます。

- 子どものケガの現状把握に向けた取り組み - 認定スクールトレーナーとの連携による取り組み

③

運動キャンペーン研究の
全域展開

世界初となる地域レベルでの身体活動促進の成功事業となった「運動キャンペーン研究」の成果手法に基づき、市全域でこの取り組みを展開しています。さらなる身体活動・運動促進を図るとともに、要介護、死亡、費用対効果といった中長期的な影響についての検証を継続しています。また、地域共生社会や「誰一人取り残さない社会の実現」に資するべく、情報格差や体験格差などにも考慮した身体活動促進をしていきます。

- 運動キャンペーン研究事業の推進 - 地域共生スポーツ推進研究事業の推進

④

地域運動指導員への
知識・技術支援

平成 18 年度からの地域運動指導員養成者総数は 206 名となり、現在 98 名が活動しています。第 3 次地域運動指導員養成事業計画に沿い、知識・技術支援や体制づくり等を行うことで、地域運動指導員をキーパーソンとした生涯現役のまちづくりの実現に向けて誰もが楽しくからだを動かせる環境づくりを推進しています。また「人と人とのつながり」を活かした地域運動指導員による取り組みをより一層充実させ、住民同士が助け合い、支えあいながら、誰もが健康に暮らすことができる地域環境づくりを進めます。

- 地域運動指導員の活動支援（育成・養成）

⑤

青壮年期の身体活動の
促進・支援

青壮年期の不活動対策に資する社会環境の整備として、事業所や関係機関等と連携した情報発信や、自然に健康づくり・疾病予防ができる仕組みや環境づくりを進めるため、ケーブルテレビや SNS を活用した普及啓発を図り、効果的かつ効率的な方法で不活動の予防に取り組むとともに、妊産婦の運動器のケアを推進します。

- 産後女性の運動器の健康づくり - 情報発信媒体を活用した身体活動促進の啓発

⑥

健康づくり拠点等との
連携・協働

雲南市健康づくり拠点（加茂 B&G 海洋センター・ラソソテ）と市内に温水プールを有する健康づくり関係施設等との連携・協働による活動を積極的に進めるとともに、誰もが健康づくりに取り組める環境整備や、安全で効果的なプログラム立案の支援を行います。

- 市民の水中運動の普及啓発 - 健康づくり拠点運動プログラムの質向上のための情報交換会の実施

⑦

健康増進のための
分野横断連携の推進

効果的な市民の健康づくりのためには運動・栄養・休養・社会参加等の多分野との連携・協働による包括的な取り組みを後押ししていくことが必要です。これまで研究所が積み上げてきた運動・栄養等に関するエビデンスを活かし、多分野・多職種連携を推進しながら、健康づくりに関わる各種施策においてシンクタンクとしての機能を発揮していきます。

- 島根県健康指標データベースの可視化 - うんなん愛の減塩プロジェクト

⑧

子どもの健康を支える
データ連携基盤の構築および
データ利活用の推進

こども政策局および教育委員会等との連携により、子どもの健康に関わる各種調査データを効果的に活用するため、幼児身体活動・体力測定、教育魅力化推進（教育分野データの活用）事業などを推進しています。多様化する子どもの心身の健康問題への現場対応を後押しする知見を得るよう、既存データの連結・分析・見える化を進めるとともに、政策還元に努めます。

- 幼児期身体活動・体力測定のデータ利活用支援 - 雲南市ふるさと教育の魅力化推進事業への支援



●認定スクールトレーナーモデル事業
in 雲南市立西小学校
(令和6年2月2日)



●雲南夢ネットケーブルテレビ体操収録
(令和6年2月20日)



●加茂子育て支援センター「からだであそぼ」
(令和6年3月6日)



●八日市お楽しみスポーツデーポッチャ
(令和6年5月15日)



●波多サンサン教室健脚度測定
(令和6年9月26日)



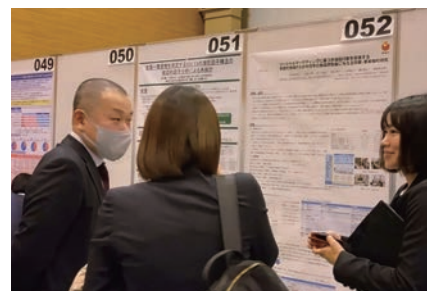
●三刀屋保育所わくわくうなんピック
(令和6年10月2日)



●教育民生常任委員会懇話会
(令和6年10月11日)



●ろうきん友の会おろち湖ウォーク
(令和6年11月8日)



●日本公衆衛生学会学術総会
(令和6年11月23日)



●令和6年度第2回運営委員会
(令和7年1月24日)



●地域運動指導員連絡協議会
(令和7年1月29日)



●島根大学人間科学部社会施設実習
(令和7年3月6日)

■普及啓発資材

市民の皆さんの健康づくりを後押しするため、普及啓発資材の制作に力をいれています。多様な知見を基に、市役所内の他部署や雲南保健所、地域自主組織などと協力しながら資料を制作し、市民の皆様へひろく情報発信しています。



『うんなんの食育あいうえお』
(令和5年4月発行)



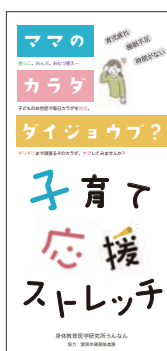
『めざせ! すくすく育つ雲南の子』
(令和6年2月発行)



『見直さ! 我が家の減塩』
(令和4年11月発行)



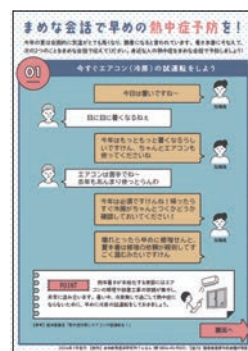
『本日の健脚度からあなたに
おすすめの体操』
(令和6年9月発行)



『子育て応援ストレッチ』
(令和3年7月発行)



『子育て応援ストレッチポスター
あなたのための、わたしの健康』
(令和6年8月発行)



『まめな会話で早めの
熱中症予防を!』
(令和6年7月発行)



『私たち地域運動指導員です
楽しく動いて健康づくり』
(令和2年度発行)



『ボッチャ実践ガイドブック』
(令和5年3月発行)



『ユニバーサルボッチャ
普及ガイド』
(令和6年12月発行)



『にゅーちゃん&アワワの歯みがき
タイム~仕上げみがき~(動画)』
(令和7年4月発行)

■論文・報告書・解説書（直近5年間）

1. 安部孝文, 鎌田真光, 北湯口純, 山北満哉, 花里真道, 樋野公宏. 小学校におけるスクールバスの徒歩区間の実装過程と促進・阻害要因: 実装研究のための統合フレームワーク (CFIR) に基づく質的研究. 体育学研究. 2025(早期公開).
2. 上岡洋晴, 北湯口純, 折笠秀樹, 津谷喜一郎. 機能性表示食品制度において届出されたシステマティック・レビューのプロトコルの質—PRISMA 2020 に対応した PRISMA-P に基づく評価—. Jpn Pharmacol Ther (薬理と治療). 53(2):105-116. 2025
3. 上岡洋晴, 北湯口純, 折笠秀樹, 津谷喜一郎. 機能性表示食品制度において届出されたシステマティック・レビューの報告の質: PRISMA 2020 に基づいての評価. Jpn Pharmacol Ther (薬理と治療). 53(1):23-25. 2025
4. Tsuzuki A, Kamada M, Amagasa S, Kitayuguchi J, Miyashita T, Abe T, Gomi T, Okuyama K, Taguri M, Inoue S. Two-year scale-up dissemination study of a multi-strategic community-wide intervention promoting physical activity: a single-arm pre-post hybrid effectiveness-implementation trial. Int J Behav Nutr Phys Act (International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity). 21:131, 20242
5. Kamioka H, Kitayuguchi J, Origasa H, Tsutani K. Research Quality of Clinical Trials Reported for Foods with Function Claims in Japan, 2023-2024: Evaluation Based on a Revised Tool to Assess Risk of Bias in Randomized Trials. Nutrients. 2024 Aug 17;16(16):2744.
6. 井上茂, 菊池宏幸, 鎌田真光, 北湯口純, 都築葵, 小熊祐子. 身体活動・運動分野のロジックモデルとアクションプランの例—日常生活における歩数の増加—. 日本健康教育学会誌. 2024, 32;S75-S84.
7. Abe T, Kitayuguchi J, Hamano T, Yamasaki M, Yano S, Isomura M. Identifying High-Priority Populations for Dietary Salt Reduction Using the TARPARE Model: A Cross-Sectional Study. Inquiry. 2024 Jan-Dec; 61:469580241282776.
8. Gomi T, Kitayuguchi J, Okuyama K, Kamada M, Inoue S, Kamioka H, Mutoh Y. Relationship between neighborhood food environment and diet variety in Japanese rural community-dwelling elderly: a cross-sectional study. Journal of Epidemiology. 2022 Jun 5;32(6):290-297
9. Abe T, Kitayuguchi J, Fukushima N, Kamada M, Okada S, Ueta K, Tanaka C, Mutoh Y. Fundamental movement skills in preschoolers before and during the COVID-19 pandemic in Japan: a serial cross-sectional study. Environmental Health and Preventive Medicine. 2022, 27:26.
10. 五味達之祐, 北湯口純, 上岡洋晴, 朴相俊. 中山間地域在住高齢者における健康な食生活の考え方と食料品選択の制限要因の計量テキスト分析. 日本農村医学雑誌. 2022, 70(6) : 624-635.
11. Kamioka H, Origasa H, Kitayuguchi J, Yoshizaki T, Shimada M, Wada Y, Takano-Ohmuro H, Tsutani K. Risk of Bias in Clinical Trials Reported for Foods with Functional Claims in Japan: A Cross-Sectional Study on Research Quality. Journal of Clinical Trials. 2022. 12(4) 1-9.
12. Kamioka H, Origasa H, Kitayuguchi J, Tsutani K. Compliance of Clinical Trial Protocols for Foods with Function Claims (FFC) in Japan: Consistency between Clinical Trial Registrations and Published Reports. Nutrients. 2022,14(1),81.
13. Kamioka H, Okuizumi H, Handa S, Kitayuguchi J, Machida R. Effect of non-surgical interventions on pain relief and symptom improvement in farmers with diseases of the musculoskeletal system or connective tissue: an exploratory systematic review based on randomized controlled trials. J Rural Med 2022, 17(1): 1-13.
14. Kitayuguchi J, Abe T, Okuyama K, Gomi T, Okada S, Shiwaku K, Mutoh Y. Association between hilly neighborhood environment and falls among rural older adults: a cross-sectional study. Journal of Rural Medicine. 2021 Oct;16 (4):214-221.
15. Ohta R, Sato M, Kitayuguchi J, Maeno T, Sano C. The Association between the Self-Management of Mild Symptoms and Quality of Life of Elderly Populations in Rural Communities: A Cross-Sectional Study. Int J Environ Res Public Health. 2021 Aug 23;18(16):8857.
16. Ohta R, Sato M, Kitayuguchi J, Maeno T, Sano C. Potential Help-Seeking Behaviors Associated with Better Self-Rated Health among Rural Older Patients: A Cross-Sectional Study. Int J Environ Res Public Health. 2021 Aug 29;18(17):9116.
17. Ohta R, Sato M, Ryu Y, Kitayuguchi J, Maeno T, Sano C. What resources do elderly people choose for managing their symptoms? Clarification of rural older people's choices of help-seeking behaviors in Japan. BMC Health Serv Res. 2021 Jul 3;21(1):640.
18. Ohta R, Ueno A, Kitayuguchi J, Moriwaki Y, Otani J, Sano C. Comprehensive Care through Family Medicine: Improving the Sustainability of Aging Societies. Geriatrics (Basel). 2021 Jun 4;6(2):59.
19. 北湯口純. 巻頭言 地域と共にある運動疫学. 運動疫学研究. 2021, 23(2).
20. 五味達之祐, 上岡洋晴. 中山間地域在住高齢者の近隣環境とタンパク質摂取量の関連: 横断研究. 栄養学雑誌. 2021;79 (1):3-13.

■学会・研究会等発表

1. 板垣美由紀, 北湯口純, 宮下拓麻, 安部孝文, 山崎雅之, 鎌田真光, 柳樂真佐実. ソーシャルマーケティングに基づく多面的地域介入が中高年者の食塩摂取量に与える効果第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024.10.

2. 都築葵, 鎌田真光, 天笠志保, 北湯口純, 宮下拓麻, 安部孝文, 五味達之祐, 奥山健太, 井上茂. 身体活動を促進する多面的地域介入の拡大普及研究: 単群前後比較試験の6年後評価. 第26回日本運動疫学会学術総会. 2024.6.
3. 都築葵, 鎌田真光, 天笠志保, 北湯口純, 安部孝文, 井上茂. 身体活動を促進する多面的地域介入の拡大普及研究. 第25回日本運動疫学会学術総会. 2023.6.
4. 宮下拓麻, 北湯口純, 安部孝文, 岡田真平. 都道府県別にみた児童生徒の不登校出現率の地域差に関連する要因: 地域関連研究. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023.10
5. 安部孝文, 北湯口純, 福島教照, 岡田真平. PAIREM モデルを用いた保育者向け幼児期運動プログラム研修の普及・実装評価. 第33回日本疫学会学術総会. 2023.2. オンデマンド
6. 加多納拓也, 北湯口純, 石田誠, 若林巧貴, 野津千亜. 官民連携による高齢者の運動器疾患予防を目的とした水中運動教室事業のプロセスの現状と課題~ PAIREM (改変型 RE-AIM モデル) の枠組みを用いた分析~. 第8回日本地域理学療法学会学術集会. 2021.12. WEB 開催

学会・研究会・シンポジウム等での講演・座長

1. 多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム 2025. 講演; 北湯口純. 運営 (共催); 慶應義塾大学 KGRI 慶應スポーツSDGs センター. 東京大学大学院医学系研究所 保健社会行動学分野. 日本運動疫学会. 運営 (後援); (公財) 笹川スポーツ財団. (公財) 健康・体力づくり事業財団. 2025.3.
2. セミナー「動きたくなる家と健康」. 意見交換「健康になれる家づくり」進行; 北湯口純. 主催; 島根県地球温暖化防止活動推進センター (公益財団法人しまね自然と環境財団). 共催; 雲南市島根県建築士会雲南支部. 協力; 身体教育医学研究所うんなん. 2025.2.
3. 第26回日本運動疫学会学術総会. 現場連携セッション; 実社会・現場に受け入れられる研究の進め方とは?~リアルワールドセッション~, 実行委員・企画担当; 北湯口純. 2024.6.
4. 第25回日本運動疫学会学術総会. 一般演題口頭発表, 2-A, 座長 北湯口純. 2023.6.
5. 北湯口純. 日本転倒予防学会第10回学術総会. パネルディスカッション3. 転倒予防の地域実践; 地域社会の転倒・一次骨折予防に資する運動普及のエビデンス. 2023.10.

受賞

1. 都築葵, 鎌田真光, 天笠志保, 北湯口純, 宮下拓麻, 安部孝文, 五味達之祐, 奥山健太, 井上茂. 身体活動を促進する多面的地域介入の拡大普及研究: 単群前後比較試験の6年後評価. 第26回日本運動疫学会学術総会, 優秀演題賞受賞. 2024.6.29.
2. 安部孝文, 北湯口純, 福島教照, 鎌田真光, 岡田真平, 田中千晶, 井上茂, 武藤芳照. PAIREM モデルを用いた保育者を対象とする幼児期運動プログラムの普及施策の実装評価. 第26回日本運動疫学会学術総会, 優秀論文賞受賞. 2024.6.29.
3. 都築葵, 鎌田真光, 天笠志保, 北湯口純, 安部孝文, 井上茂. 身体活動を促進する多面的地域介入の拡大普及研究. 第25回日本運動疫学会学術総会, 優秀演題賞受賞. 2023.6.24.
4. 身体教育医学研究所うんなん「地域運動指導員」とともに進める、持続可能な運動器の健康地域づくり. 2023 年度運動器の健康・奨励賞.

6

その他



スタッフ

(後列左より) 宮下、狩野、北湯口、土屋
(前列左より) 吾郷、西川、錦織、陶山

資料発行

令和7年4月発行

発行・編集

身体教育医学研究所うんなん

【設置者】

雲南市長 石飛厚志

【名称】

雲南市健康福祉部 身体教育医学研究所うなん

Physical Education and Medicine Research Center UNNAN

【アクセス】

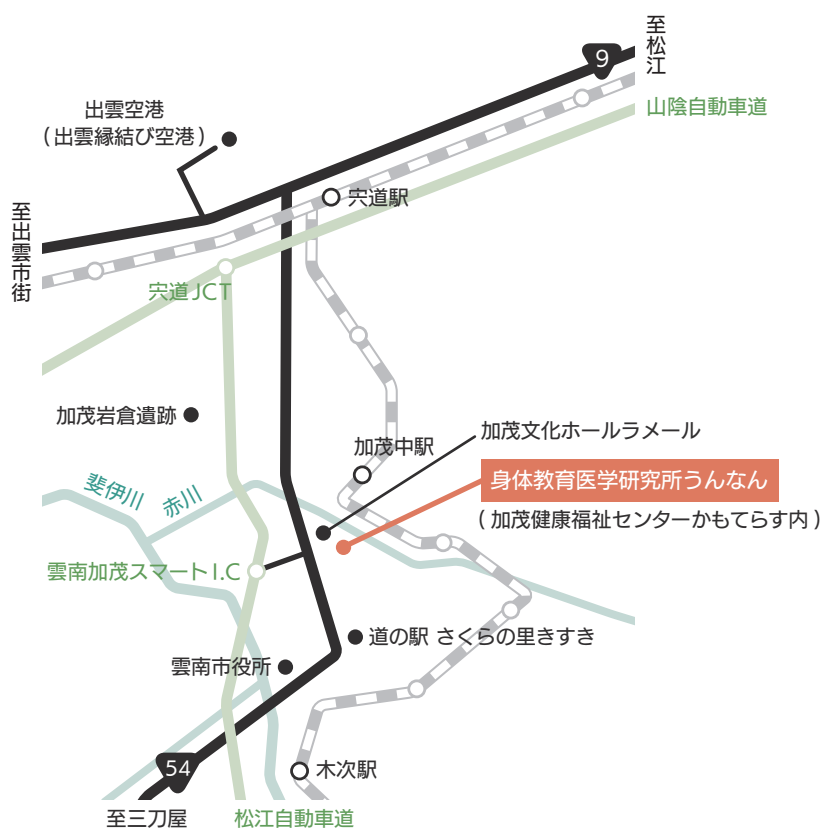
所在地：〒699-1105 島根県雲南市加茂町宇治328番地

連絡先：TEL .0854-49-9050 / FAX .0854-49-7050

[JR木次線 加茂中駅から] 徒歩約10分

[出雲空港 (出雲縁結び空港) から] 車17分

[高速道路 松江自動車道 雲南加茂スマートI.C から] 車3分



<https://www.shintai-unnan.com/>



地域運動指導員

「ボッチャ」サポーター養成研修会風景